

平成21年度
公共事業評価監視委員会
(事後評価)

ほ場整備事業
鍋島地区



(1) 事業概要

ほ場整備事業とは

事業の目的

- ・農地等の区画形質の変更、その他ほ場条件等の整備を行うことによって、農業生産性の向上を図り、併せて農業の近代化を図る。

事業の内容

- ・ほ場の大区画化、農道の整備、用水路、排水路の整備、農地の排水条件の整備を総合的に実施

区画整理

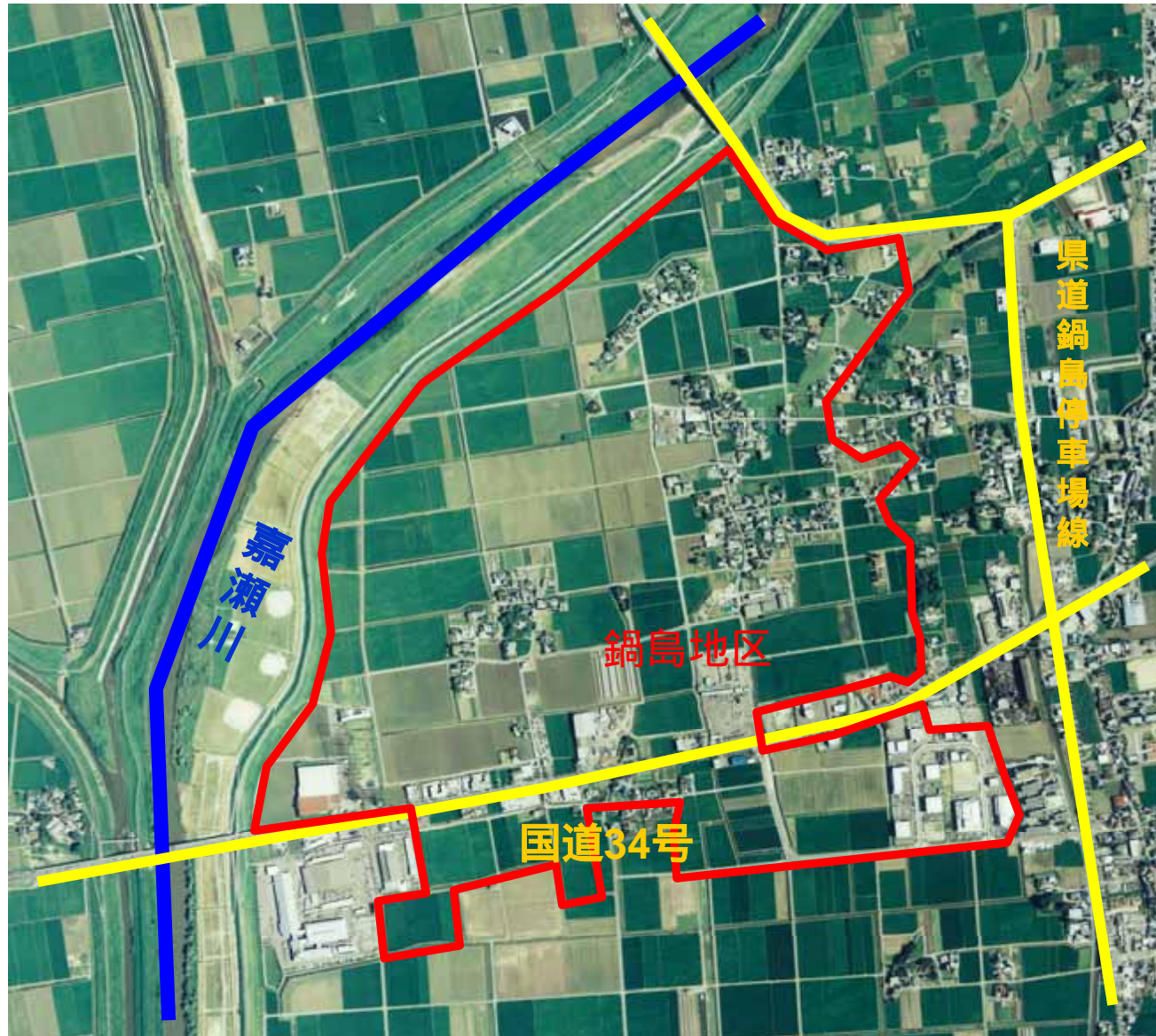


+

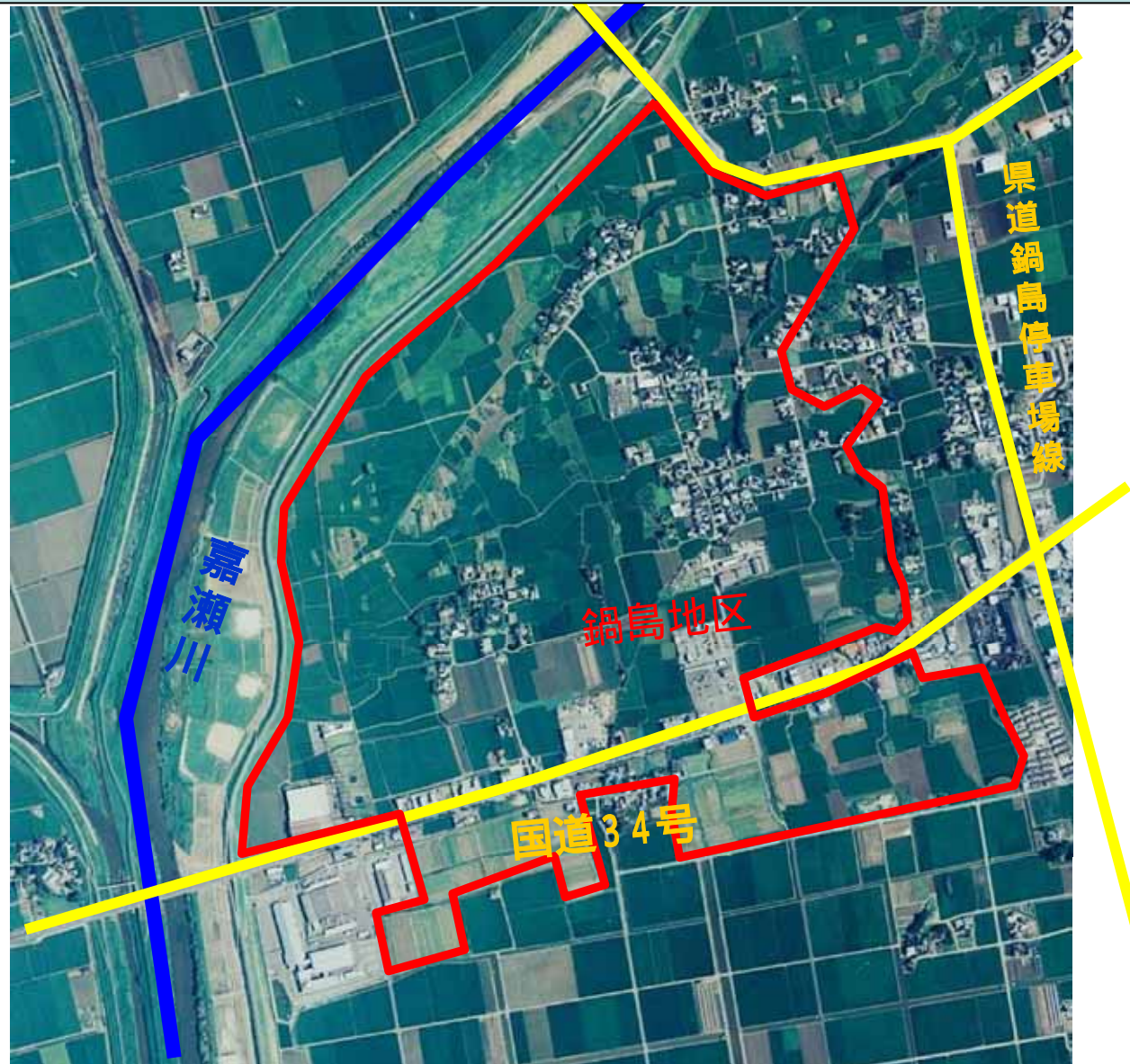
暗渠排水



鍋島地区の概要（事業実施後）



鍋島地区の概要（事業実施前）



鍋島地区の概要

【鍋島地区概要】

受益面積: $A = 73.1$ ha

受益戸数: 139戸

工期: 平成8年度～平成15年度

総事業費: 1,820,238千円

事業内容

・区画整理 $A = 73.1$ ha

（
用水路整備（用水ポンプ、パイプライン）
排水路整備
農道整備
）

・暗渠排水工 $A = 67.7$ ha



大区画化、整形、汎用化されたほ場



整備された用水路
（用水ポンプ、給水栓）



整備された農道と排水路

(2) 事業による環境の変化

交通

・整備された農道は、大型機械の通行が可能になるなど、営農面での利便性が向上している。また、農道の一部は、通勤や通学、集落間を結ぶ生活道路として利用されている。



環境

・農道を整備したことにより、利便性が向上したが、空き缶やペットボトルなどゴミの不法投棄が増えた。



水路への空き缶やペット
ボトルのポイ捨て

(3) 事業 (農業) を巡る社会経済情勢の変化

・佐賀市の変化(旧佐賀市で比較)

単位:人

	平成7年度	平成17年度	増減
総人口	171,231	166,772	4,459
農業就業人口	4,117	3,228	889
65歳以上	1,426	1,721	295
高齢化率	34.6%	53.3%	18.7%

【 旧佐賀市のH16.10.1現在の人口を記載】
農業センサス

・経営規模別農家数

単位:戸

	平成7年度	平成17年度	増減
総農家数	2,794	1,857	937
0~1ha	1,214	530	684
1~3ha	1,316	974	342
3~5ha	231	267	36
5ha~	33	86	53

農業センサス

- ・ 農業就業人口の減少
- ・ 65歳以上の割合の増加
- ・ 経営規模3ha以上の農家の増加
- ・ 担い手への農地集積
- ・ 経営面積の拡大
- ・ **農業経営の安定化**



(4) 事業により整備された施設の維持管理状況

農道や排水路の日常管理は、各々の農家で実施されており、軽微な補修は佐賀市土地改良区で実施されている。

また、以前の地区内では主に農家により、法面の草刈り等が実施されていた。現在は、平成19年度に『鍋島町江里桜の環境と農業を守る会』が組織されるなど、地域住民が一体となって、施設の点検、法面の草刈り、道路や水路のゴミ拾い、水路の泥あげなどが、定期的に行われている。



【法面の草刈り】



【水路の泥あげ】

(5) 県民の意見 (農家への聞き取り)

良くなった点

【ほ場の大区画化により】

・大型機械などによる効率的な営農が可能となった。

【農道の整備により】

・大型機械の導入が可能となった。
・幅員が狭く離合もままならず、営農や生活に支障をきたしていたが解消した。

【農地の乾田化により】

・麦の反収が上がった。
・大豆を適期に播けるようになった。

悪くなった点

【農道の整備により】

・利便性が向上したが、ゴミの不法投棄が増えた。
・バルーン大会の時、路上駐車が増え、農作業に支障がでるようになった。



黄金色に輝く麦



水路に浮く、ビニール袋、ペットボトル

(6) 事業の効果

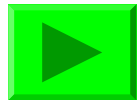
事業の直接的効果

ほ場の大区画化が行われ道路や水路が整備されたことにより大型機械の導入が可能となった。

暗渠排水の施工により、水田の畑地利用が可能となり、大豆・麦など作付けが増加し、また、白菜などの新規作物が導入され、収益性の高い農業経営が展開されている。



白菜の作付け



事業の間接的波及効果

地区内では、ほ場整備事業の実施を契機に、江里桜機械利用組合による麦作の共同化に取り組んでいる。

この組合は、平成18年度に『農事組合法人えりさくら』として法人化され、鍋島地区の約3分の1の農地が経営されている。



えりさくらによる大豆の播種



(7) 地域住民との関わり

本地区内の神社では、秋祭りの浮立が奉納されている。ほ場整備で農道が整備されたことにより、神社までの自動車による交通アクセスが容易になったことで、近年では、近隣の市町のみならず他県からの見物者も増加してきており、農村部と地域外住民等がふれあう交流の場となっている。



奉納される浮立

地区内で収穫された農産物の一部は、地区内農家により設立された『農事組合法人えりさくら』のブランド名で市内の直売所で販売されている。



直売所で販売される米

(8) 今後の課題等

維持管理

・維持

道路や水路等への不法投棄を防止するため、農業用施設の維持管理を適切に行い、不法投棄がされにくい環境を継続して維持することが必要。

・体制継続

農家人口の減少や高齢化が進行していくなか、施設の維持管理体制が、現在のように農家、非農家一体となって取り組む形が、スムーズに次世代へ引き継がれるかが課題である。

(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等

改善点

事業完了後、ほ場整備により整備した施設の長期にわたる機能保持には適切な維持管理が必要である。以前は各々の農家が主体に行ってきた法面の草刈り等も、現在は地域住民が一体となり実施されている。

今後は、事業計画時点から、農家、非農家を問わず、維持管理へ地域住民の協力が得られるよう、地域内で話し合いを十分に行い、維持管理体制を整えていく。



おわり

農地の集積状況の変化

・農地の集積状況（佐賀県全体）

年度	農地面積(ha)	集積面積(ha)	集積率(%)
平成8年度	60,800	18,186.7	29.9%
平成20年度	55,000	28,909.9	52.6%

22.7%の増



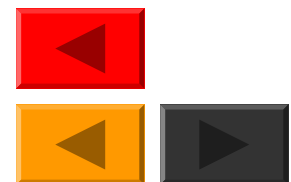
認定農業者の変化

・認定農業者数

単位：人

	H8年3月末現在	H16年12月末現在	増減(人)	増減(%)
佐賀市	150	280	130	87%
県全体	2,079	4,018	1,939	93%

平成21年3月末現在の佐賀県内の認定農業者数 5,235人



大麦、大豆の収穫量の変化

・大麦の10a当たり収穫量

単位：k g

	平成7年産	平成20年産	増減
佐賀市	348	490	142
県平均	352	475	123

農林水産省統計部『作況調査』

佐賀市の平成7年は合併前、平成20年は合併後のデータ

・大豆の10a当たり収穫量

単位：k g

	平成7年産	平成20年産	増減
佐賀市	230	268	38
県平均	219	253	34

農林水産省統計部『作況調査』

佐賀市の平成7年は合併前、平成20年は合併後のデータ



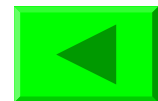
作物の作付け面積の変化

・作物の作付け面積

単位:ha

作物名	事業実施前 (平成6年度)	事業実施後 (平成18年度)	増減
水稲	62.4	48.6	13.8
大豆	7.7	16.2	8.5
大麦	29.6	66.0	36.4
なす	0.8	1.0	0.2
いちご	2.6	0.7	1.9
レタス	2.4		2.4
たまねぎ	4.8	0.8	4.0
白菜		2.8	2.8
胡瓜		1.9	1.9
大根		1.0	1.0
ほうれん草		2.6	2.6
里芋		1.9	1.9
合計	110.3	143.5	33.2

実施前は事業計画書、実施後は土地改良区調査



大型機械の導入・麦作の共同化

事業実施前

コンバイン： 2～3条刈(幅1.6m)

田植機： 2～3条植(幅1.0m)

事業実施後

6条刈(幅2.3m)

8条植(幅2.8m)



大型機械(田植機8条植)による作業



麦作の共同作業

